

中日新聞
R.V. 4/21 (木)

地域で推進 薬草栽培学ぶ

高浜・内浦小中 生徒が植え付け

総合学習「ふるさと学習」の一環として地域の薬草栽培を学んでいる高浜町内浦小中学校の中学二年生

七人が十五日、同町山中の畑に薬草ヤマトトウキを植え付ける体験をした。

町は、中山間地域の内浦地区などで「薬草産地化推進事業」に力を入れている。総合学習では、薬草裁

培を通して地域資源の魅力を掘り下げている。

体験で生徒を指導したのは同事業に栽培指導員として協力する九州保健福祉大薬学部生薬学講座准教授の渥美聡孝さん(三十九)。

薬草を中国からの輸入に頼っている実情や国内で生産する意義、ヤマトトウキの効能、定植のコツを説明した。

畝では生徒が二人一組で作業した。苗の主根と側根がバランス良く成長するよう斜め四十五度で植え付けることを意識。土をかぶせ

ていき、計約五十本の苗を定植した。最後に保水性があり、土の温度の急激な上昇を抑えるわらをかけた。

同校の上田真歩さんは「婦人病に効く薬草と学んだので、人を助けられる薬草栽培の作業に関われてうれしい」と話した。

生徒たちは今後、追肥や雑草処理、十一月の収穫や来年二月の加工などの作業に参加する。(相原豪)

この記事は中日新聞社の許諾を得て転載しています。

2020427 127685